



〈連載48〉

盛況を極める カリブ海クルーズ



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

一年半ぶりにカリブ海クルーズの一大拠点マイアミにやってきた。相変わらず、カリブ海クルーズは盛況を極め、毎日週末に出港する大型のクルーズ客船はどの船も満船の乗客を積んで、カリブ海への航海に出港していく。その船も次第に大きくなり、マイアミ起点の7万トンで旅客定員が2000名を越えるジャンボ・クルーズ客船が4隻も就航するようになった。筆者のお気に入りのサブリン・オブ・ザ・シーズを出港前に訪れ、船内をひさしぶりにまわり、船側の話しを聞くことができた。この航海も、2400名の満船で、シーズンオフの夏も略どの航海もフルブックングとのこと。船の従業員にも、陸上の人々の顔は、自信にあふれ、クルーズの将来についても極めて楽観的である。ただ、最近の米国での景気後退の影響を受けていることは確かだそうであり、経営状態が悪化している会社と、経営状態の上向いている会社の2つに、はっきりと分離しはじめてという状況のようである。近い将来、米国のクルーズ業界はさらなる寡占化の兆候を見せ始めるのかもしれない。

今回の旅行では、マイアミ港湾局、ロイヤル・カリビアン・クルーズ・ライン本社（RCC

L）を公式訪問した他、クルーズ客船サブリン・オブ・ザ・シーズとソング・オブ・アメリカの2隻の船内見学、さらにデイクルーズ客船スカンジナビアン・ソングによる1日バハマ・クルーズおよびノルディック・エンプレスによる4泊5日のカリブ海クルーズを行なった。約10日の日程の中で、カリブ海クルーズの成功例を徹底的に分析してみたいと考えた視察旅行で、それなりの成果を挙げる事ができた。特に、現在急速に伸びつつある3～4日の短期クルーズの現状を知ることができたことは大きな成果であった。

マイアミ港を起点とするクルーズへの乗客40万人のうち、60%近くがこの短期クルーズの客だという。使用船も古い改造クルーズ客船が多かったが、現在では7万トンの新造客船ファンタシーや4万トンのノルディック・エンプレスなど、最新鋭の大型クルーズ客船が投入されるようになった。

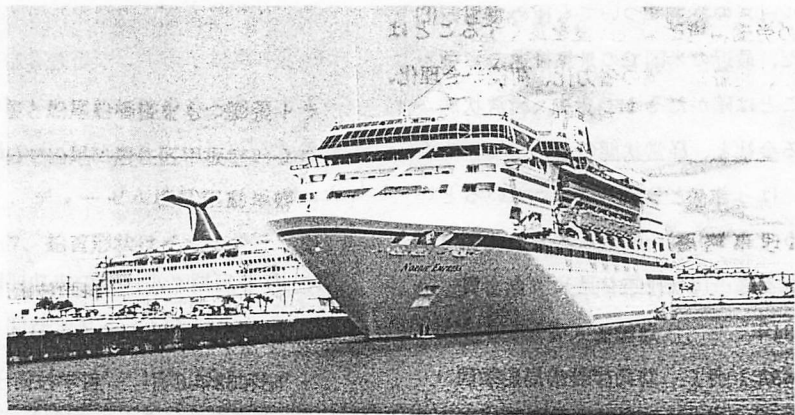
この短期クルーズの成功要因にはいろいろ考えられるが、何ととっても時間も取りやすく、また料金も長期クルーズに比べると安いことであろう。週末の3日クルーズには、若い層が大量に流れこんでおり、この短期クルーズのおかげ

で米国のクルーズはますます大衆化、若年化が進んでいる。ターミナルで乗船客を見ている、年金生活に入ったような老年客の数はそれほど多くない。古いスタイルのクルーズとは根本的に違うところであろう。この短期クルーズの料金の一例を紹介すると、我々の乗船したノルディック・エンプレスの4泊クルーズは最低675ドルから最高1645ドル。約10万円からで、この料金には北米各地からの飛行機代が入っている。まさに、日本でたくさんのお客を集めているバックツアーの料金と変わらない料金で、気軽に高級クルーズが楽しめるようになってきているのである。なんともうらやましい限りである。この低料金の実現には、安いサービス要員の雇用、大量の乗客を扱うことによる必要経費の削減など、極めて周到な経営方針が貫かれており、成功できる会社とできない会社の差が歴然としている。収益の分岐点は、乗客が定員の70%を越えるあたりにあると言われ、成功している会社はいずれも乗船率が100%を越えている（この乗船率を計算する時の旅客定員は、全キャビンと2人部屋とした場合の旅客数をとっている）。特に人気のある船は予約も取りにくく、1年近くフルブッキングなどという超人気のクルーズ客船まで現れている。

もうひとつの

最近の米国クルーズの特徴は、船によるクルーズを陸上の他のレジャーと組合せたツアーが非常に成功しはじめていることである。フロリダの各港からのクルーズであれば、例えばディズニーワールドと3日カリブ海クルーズをセットした企画などである。これだとトータルで1週間のパッケージで、エキサイティングなディズニーワールドとリッチなクルーズを楽しめる。こうした企画が、従来クルーズを知らなかった人々を、クルーズに巻き込むことに大きく寄与している。RCCLの本社でも、旅行代理店および顧客へのクルーズ教育、すなわちクルーズとはどのようなレジャーかを知らせることが非常に重要だ、そのためにかなりの努力をしている、との指摘があった。他のレジャーとを組合せることによって、今までのクルーズを知らない人々にクルーズを知ってもらう機会を作ることもひとつの戦略として興味深い。

日本からのカリブ海クルーズの企画でも、すでにクルーズの楽しみを知った人にはクルーズだけのバックツアーもよいが、まだクルーズを知らない人にはこうした他の目玉もつけたツアーが効果的のように思う。



フリーポートの港に停泊するノルディック・エンプレスとファンタジー（後方）。

3～4日間クルーズにもこうした大型新造船が投入されるようになった。